

事項	ぶどう「スチューベン」を長期貯蔵するためのフェンヘキサミド水和剤（パスワード顆粒水和剤）による灰色かび病防除		
ねらい	長期貯蔵可能なぶどう「スチューベン」では、普通冷蔵中に発生する灰色かび病が問題となっている。本病害に対して、8月下旬～9月上旬にフェンヘキサミド水和剤（パスワード顆粒水和剤）を散布すると高い防除効果を示すことが明らかになったので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 処理方法</p> <p>(1) 適用作物：ぶどう「スチューベン」</p> <p>(2) 使用目的：普通冷蔵における灰色かび病の発生防止</p> <p>(3) 処理時期：8月下旬～9月上旬の1回</p> <p>(4) 処理方法：10a当たり250ℓ散布</p> <p>(5) 希釈倍数：1,500倍</p> <p>2 農薬使用基準等</p> <p>(1) 登録年月日：平成11年8月24日</p> <p>(2) 一般名：フェンヘキサミド水和剤</p> <p>(3) 商品名：パスワード顆粒水和剤</p> <p>(4) 有効成分・含量：フェンヘキサミド 50%</p> <p>(5) 毒性・魚毒性：普通物 A類</p> <p>(6) 適用病害及び使用方法</p> <p>ア 適用病害：灰色かび病</p> <p>イ 希釈倍数：1,000倍～1,500倍</p> <p>ウ 使用方法：散布</p> <p>エ 使用時期：収穫14日前まで</p> <p>オ 使用回数：2回以内</p>		
期待される効果	貯蔵中の灰色かび病の発生による商品化率の低下を防ぐとともに、被害果粒の摘除作業が軽減される。		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成17年3月1日現在の農薬登録に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(http://www.maff.go.jp/nouyaku/)を確認すること。</p> <p>3 単用で使用するとともに、果面汚染を防ぐため展着剤は使用しない。</p> <p>4 散布によって軽微な葉害が発生することがある。</p>		
担当	青森県農林総合研究センターりんご試験場 県南果樹研究センター 中地方農林水産事務所弘前地域農業改良普及センター 北地方農林水産事務所五所川原地域農業改良普及センター	対象地域	県下全域
発表文献等	平成14年度 青森県りんご試験場試験県南果樹研究センター成績概要集 平成15～16年度 青森県農林総合研究センターりんご試験場試験県南果樹研究センター成績概要集 東北農業研究57号		

【根拠となった主要な試験結果】

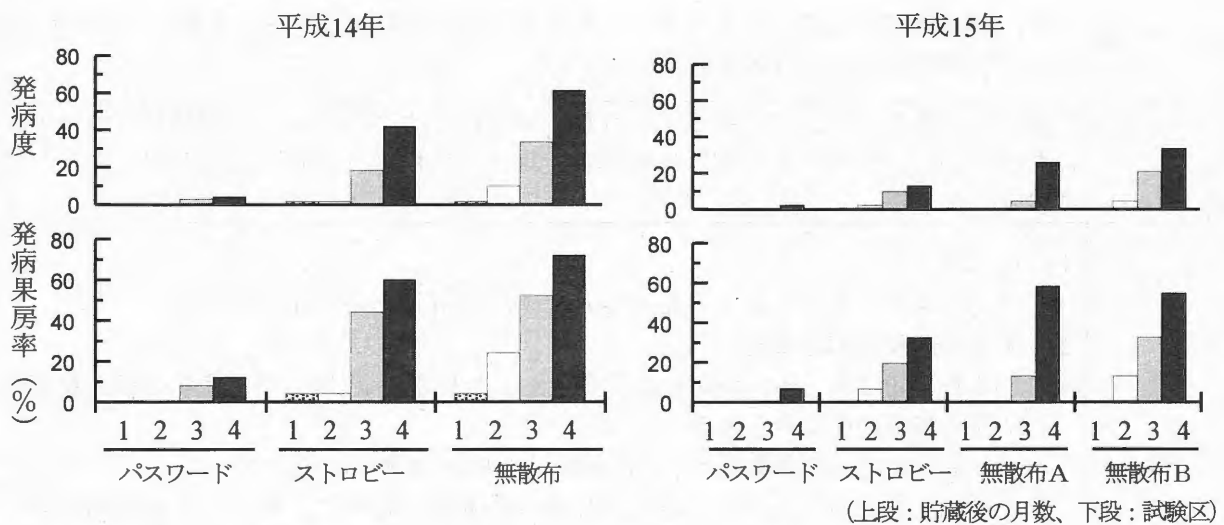


図1 スチューベンの普通貯蔵中における灰色かび病の発生推移

(平成14年 青森りんご試県南果樹セ、平成15年 青森農林総研りんご試県南果樹セ)

- (注) 1 平成14年 試験開始前の薬剤散布：8月上旬まで県病害虫防除暦に従って定期的に基準薬剤を散布、供試薬剤：9月3日に動力噴霧機でパスワード顆粒水和剤1,500倍、ストロビードライフフロアブル2,000倍を散布、供試樹数：1区3樹、収穫日：10月7日、貯蔵（0～2℃）開始日：10月10日、供試果数：各区25果房
- 2 平成15年 試験開始前の薬剤散布：平成14年に同じ、但し無散布B区は8月上旬も無散布、供試薬剤：9月8日に平成14年と同様に散布、収穫日と貯蔵（0～2℃）開始日：10月8日、供試果数：1区約30果房
- 3 発病度 = {Σ(発病指数×該当果房数) × 100} ÷ (調査果房数 × 3)
 発病指数 0：健全、1：1果房当たりの発病果粒2個以下、2：3～4個、3：5個以上

表1 8月下旬～9月上旬の薬剤散布における果面汚染（平成14～15年 青森農林総研りんご試県南果樹セ、平成16年 中南農林弘前農改セ、平成16年 北農林五所川原農改セ）

薬剤名・倍数	県南果樹セ		実証試験（平成16年）	
	平成14年	平成15年	弘前農改セ	五所川原農改セ
パスワード顆粒水和剤・1,500倍	±～+	±～+	～±	±
ストロビードライフフロアブル・2,000倍	±～+	±～+	～±	試験なし

- (注) 1 果面汚染
 -：なし、±：かすかに認められる、+：やや認められるが実用上問題なし、++：はっきりと認められ実用上問題あり
- 2 薬剤散布：県南果樹セでは平成14年、15年とも動力噴霧機（散布月日は図1を参照）、実証試験では弘前農改セ（8月28日）、五所川原農改セ（8月23日）ともスピードスプレーヤで散布

(参考)

価格：パスワード顆粒水和剤 1,717円/10a (1,500倍で2500散布)